

令和4年度

学生によるオレンジリボン運動

日本赤十字社助産師学校 実施報告書



実施主体 マタニティクラス「マトリカリア」

実施内容 令和4年9月8日よりマタニティクラスとして活動

①事前に取り組んだ内容

学生主体のマタニティクラス「育児」担当の学生に、児の「泣き」への対処やサポートの必要性、児童虐待防止につながる内容を織り込むこと、オレンジリボンを媒体に貼付し、可能であればオレンジリボン運動について説明するよう指導した。マタニティクラスの学生メンバーは、育児の基本的な知識のみではなく、どのような時にママが困るのか、どのように対処したらいいのかを具体的に説明して育児への不安を軽減する方法を検討した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

マタニティクラスはオンライン開催を行い、他学生が妊婦役として参加した。メッセージがわくように画像やイラストを多用し、児が泣く理由を挙げ、その対処やサポートの必要性を述べた。オレンジリボン憲章についてもその流れで説明した。

③オレンジリボン運動を終えて…

子どもを健やかに育てるためには母親のこころの安定が必要であること、そのためには産後のサポートが必要であること、一人で頑張りすぎなくても良いことを認識してもらえようという説明ができた。オレンジリボン憲章についても自然な流れで説明ができていた。

マタニティクラスの学生メンバーは全員で何度もリハーサルして検討することで、その重要性を認識する機会となった。

妊婦役の学生からは、「育児は不安だったが一人で頑張らなくていいことが分かった」「育児が楽しみになった」という意見が聞かれ、上手にサポートを得ながら育児を楽しむことを伝える大切さを学んでいた。

【日本赤十字社助産師学校】

<http://www.med.jrc.or.jp/relation/tabid/388/Default.aspx>